

病理診断科

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 病理診断科初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学病院病理診断科

部長 大喜多 肇 准教授

研修医担当主任 辻川 華子 専任講師

III 病理診断科の概要・特徴・特色

慶應義塾大学病院病理診断科には6名の病理専門医が所属しており、病理学教室所属の病理医や臨床検査技師等のメディカルスタッフとともに慶應義塾大学病院の各科から提出される組織検体及び細胞検体の標本作成や診断、病理解剖を行っている。術中迅速診断や各科を通して依頼された他院からのセカンドオピニオン検体の診断にも対応しており、全身に渡る臓器病変の多様化する診断基準や取扱規約、治療方針に対応すべく、技術や知識の更新に取り組んでいる。またカンファレンス等を通じ、他科との連携を深めている。

IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標」に準じる。

臨床医学における病理診断学の役割を理解するとともに、病理組織学の基本的知識を習得する。代表的な疾患の典型的な肉眼像・組織像を把握するとともに、臨床データと対比し病態の総合的理解に努める態度を身に付ける。

(1) 病理診断

- ・組織診断と細胞診断の違いを理解する。細胞診は可能な範囲で代表的な症例につき観察を行う。
- ・臨床情報や依頼紙記載情報と合わせた検体情報の確認ができ、生検検体や手術検体等の切り出し、標本作成方法に関して理解できる。
- ・肉眼所見や顕微鏡等を用いた病変の観察による所見の報告書への記載ができる。または所見の記載方法の指導を受けて理解できる。

(2) 病理解剖

病理解剖の必要性を理解し、病理解剖を通じて疾患の臓器相関および全身的な把握の仕方を理解し、人体病理学の基礎的概念を修得する。研修期間や希望に応じて、解剖→切り出し→検鏡→剖検報告の作成といった一連の剖検業務の流れを学ぶ。

(3) 各種検討会への参加

病理医間の意見交換、臨床病理カンファレンス（CPC）や症例検討会、剖検症例検討会（示説会）の必要性を理解し、研修期間内に開催があれば参加する。

(4) チーム医療

病理医および臨床検査技師を主とするメディカルスタッフ者間で連携して業務を行う重要性を学び、他科のメディカルスタッフとのコミュニケーションの必要性を理解する。

V 研修方略

- ・病理診断科に配属された研修医に対して、研修医担当主任を中心に、病理専門医が指導を行う。病理診断科における病理組織診断を中心とし、可能であれば、病理解剖見学やカンファレンス及び症例検討会参加を行う。基本的な知識や技術の理解に加え、希望に応じて個別に分野を絞ったスケジュールを設定する。
- ・到達度は研修期間に依存する。

VI 研修評価

厚生労働省による到達目標の自己評価、指導者による評価を行う。

オンライン臨床教育評価システム (EPOC2: <https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>)にて、評価票ⅠⅡⅢの研修医評価、指導医評価、メディカルスタッフ評価を実施する。経験すべき症候/疾病・病態を当診療科にて経験した場合は、病歴要約の提出を確認し、EPOC2にて承認を行う。2年間の研修修了時には、評価票ⅠⅡⅢの各評価がレベル3に到達するよう指導を行う。ただし、当科では患者を直接診療することはないため、基本的診療業務の到達目標設定や評価は難しい。